

2015年度 決算説明会

2016年5月17日

FUJITSU

shaping tomorrow with you

株式会社富士通ビー・エス・シー
代表取締役社長
小島 基

目次

1. 2015年度決算概要
2. 事業区分別状況
3. 2016年度の取り組み/業績予想
4. トピックス

目次

1. 2015年度決算概要
2. 事業区分別状況
3. 2016年度の取り組み/業績予想
4. トピックス

2015年度 決算概要 (通期)

(単位：百万円)

	2014年度 実績	2015年度 実績	前期比	予想比
売上高	31,498	31,850	+ 35 1	△550
営業利益	1,049	106	△942	+ 106
経常利益	986	113	△872	+ 153
親会社株主に帰属する 当期純利益	2	△2,248	△2,250	+ 152
配当金	27円 00銭	27円 00銭	—	—

前期比

- ✓ 上期の不採算案件の影響で営業利益、経常利益ともに減
- ✓ 繰延税金資産取崩親会社株主に帰属する当期純利益は損失

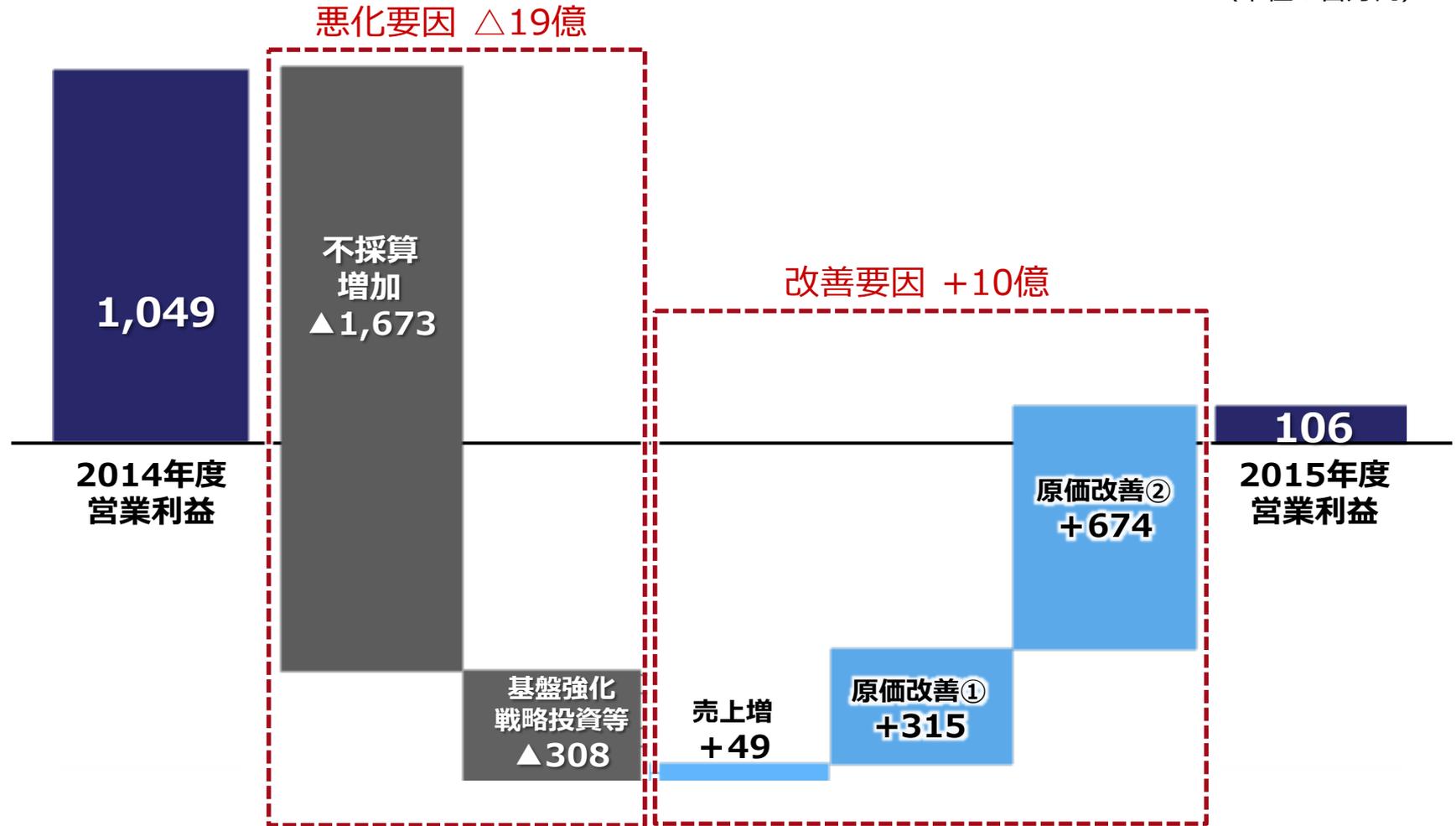
予想比

- ✓ 上期不採算を受けて実施した緊急対策(アシュアランス機能の充実/社員の意識改革など)により下期予想値を上回り、利益を確保

営業利益の前期比増減要因

■ 不採算プロジェクトの発生により損益悪化

(単位：百万円)



原価改善① 開発効率化、コスト削減

原価改善② 2014年度に不健全資産一掃、今年度は発生無し

不採算プロジェクトによる上期損益への影響

<2015年11月11日 決算説明会資料再掲>

従来からPA室を設置する等、大規模プロジェクトを中心に管理機能強化をはかっており、昨年度には一定の成果を得ていた。

【2Q累計】

- 910百万円の損失が発生
- 更に将来必要となるコストを見極め、1,025百万円を損失引当

(単位：百万円)

	2013年度	2014年度
不採算損失額	833	402

2015年2Q累計		
不採算	損失引当	計
910	1,025	1,935

<2015年11月11日 決算説明会資料再掲>

従来実施してきた対策

- ✓ 全社プロジェクトアシュアランス室を設置
(大型プロジェクトから開始し、中小規模にも展開)
- ✓ プロジェクト計画書等開発手順の徹底
- ✓ リーダクラス向けのプロマネ教育の充実

開発工程(受注後)
を中心に実践

今回発生要因

- ✓ 商談段階・受注時点での開発規模・リスクの誤認(過大な受注優先意識)
- ✓ 商談段階・受注時点でのプロジェクトチェック体制の不備
- ✓ リスク発生時の状況認識の甘さによるエスカレーションの遅れ
- ✓ 顧客との関係を優先することによる個別プロジェクトでの損益意識の低さや
リスク時の対応の甘さ

商談段階・受注時点での
アシュアランス充実

意識行動改革

商談段階・受注時点でのアシュアランス充実

1. 全社PA会の監視スコープ

- (1) 受注総額1億円以上を2千万円以上に拡大
- (2) 要件定義のみ受注の案件も対象（大規模案件になる可能性があるため）

2. 受注段階からの商談精査

商談伺審査と担当取締役による見積審査の2段階化

3. 富士通グループの知見を活かしたプロジェクトマネジメント

富士通OBによるプロジェクトマネジメントの支援（メンタリング）

4. プロジェクト総点検

保守を除く全プロジェクトについて毎月実施（従来は四半期に1回）

意識行動改革

1. 富士通研修プログラム

幹部社員48名に対し3ヶ月間、集中研修を実施

社員自らがマインドセットを変革し、一人ひとりが自律的に考え行動する能力を磨く

2. 教育体系の見直し(技術教育/ビジネス教育)

- (1) 幹部社員を中心にワークショップ開催（ビジョン共有、現状認識、課題抽出）

⇒全幹部社員への役員面接実施

- (2) 富士通キャリアフレームワークの全社適用

⇒体系的・計画的な人材育、グループ人脈形成、モチベーションアップ

- (3) 企業人/SE/リーダーとしての心構えまで含めた抜本的な教育体系の見直し

下期のプロジェクトコントロール

■ 不採算プロジェクトは予想の範囲内（上期引当内）で収束

不採算損失

(単位：百万円)

		上期	下期
期間損失額	(A)	△910	△894
損失引当 引当取崩 引当戻し(精算)	(B)	△1,025 0 0	△227 806 175
損失引当残高		△1,025	△271
損益影響 (A+B)		△1,935	△140

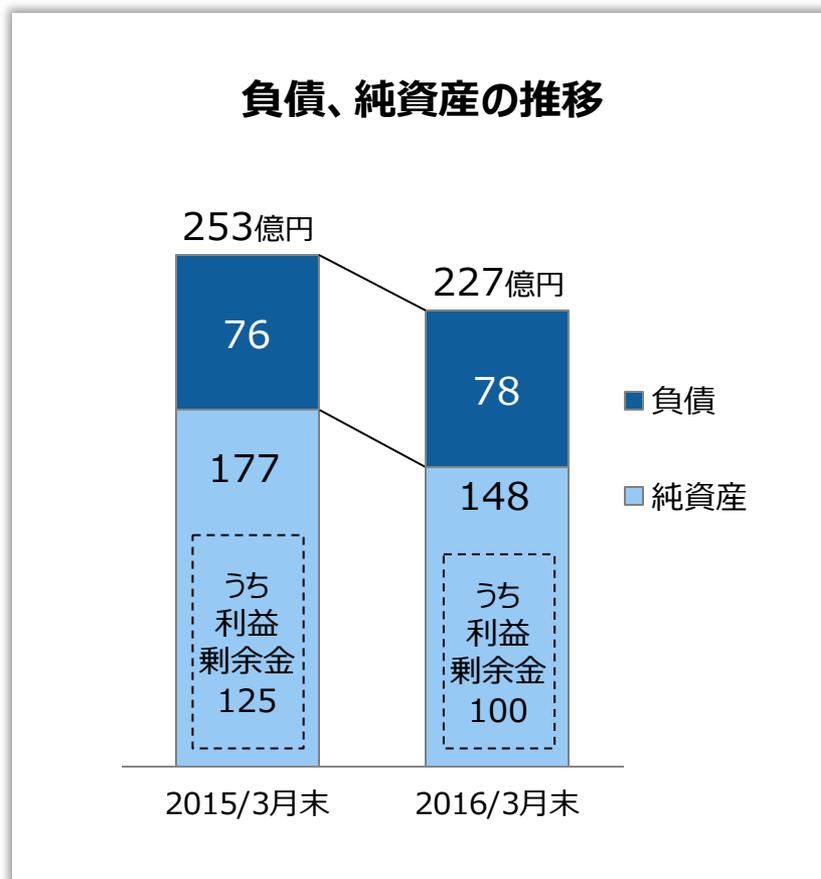
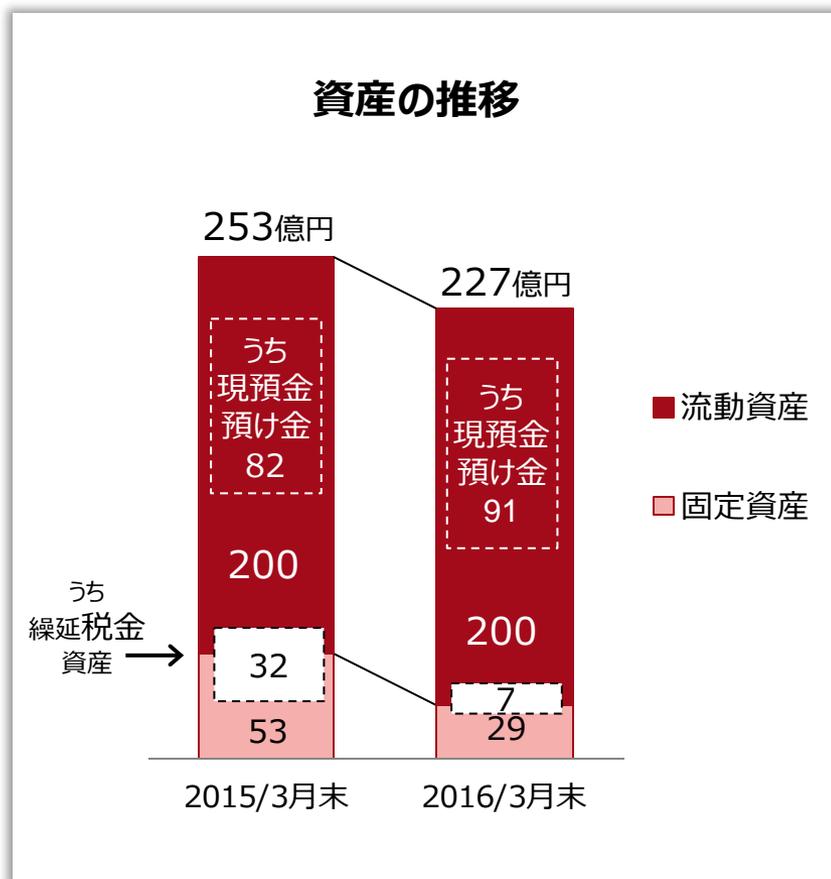
連結業績推移

(単位：百万円)

	上期	下期
売上高	15,441	16,408
営業利益	△901	1,007
経常利益	△892	1,006
親会社株主に帰属する 当期純利益	△3,253	1,004

- 資産・負債については堅調に推移、ただし総資産は繰延税金資産取崩により減少

(単位：億円)



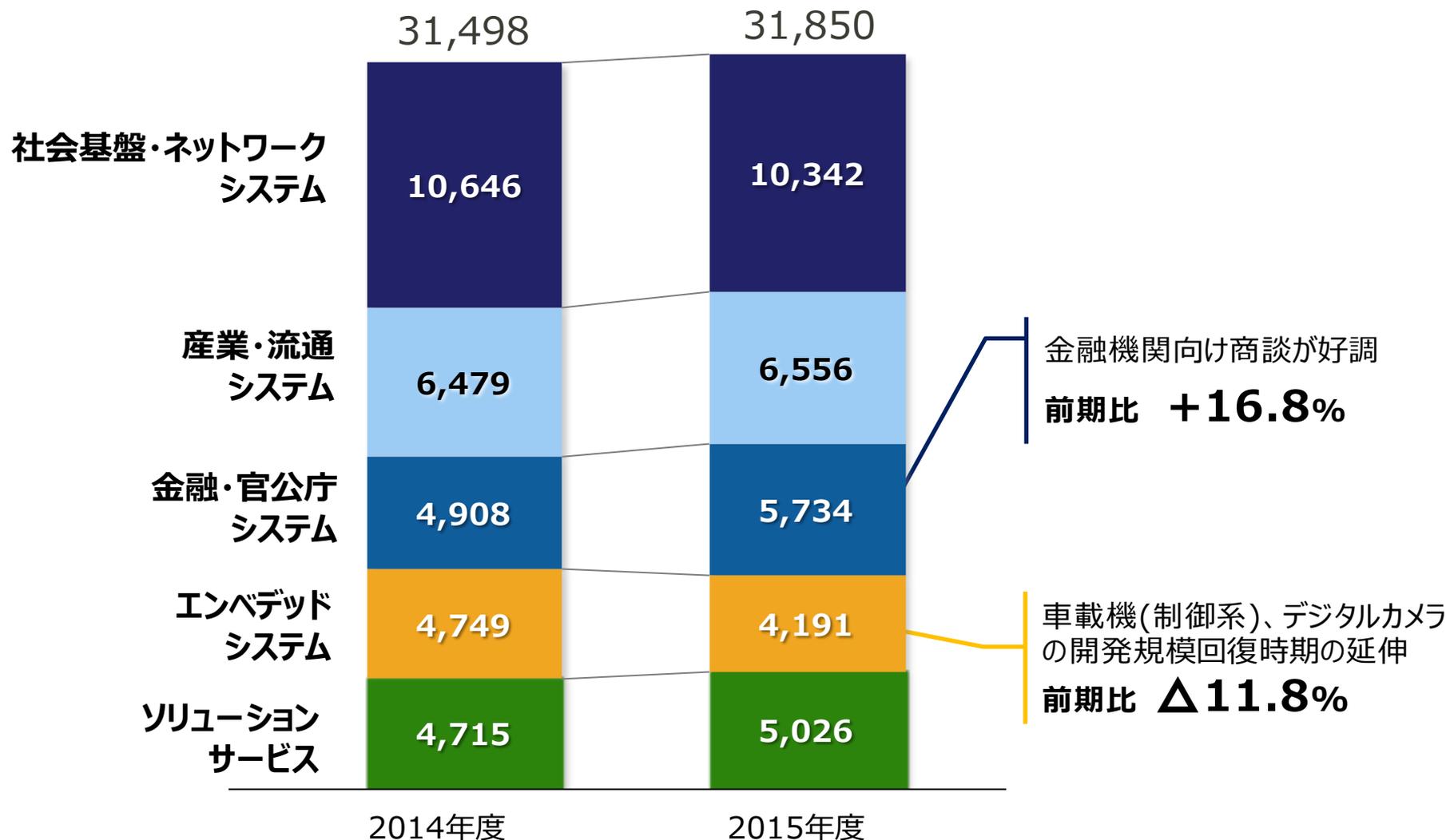
自己資本比率 69.3% → 65.0%

目次

1. 2015年度決算概要
2. 事業区分別状況
3. 2016年度の取り組み/業績予想
4. トピックス

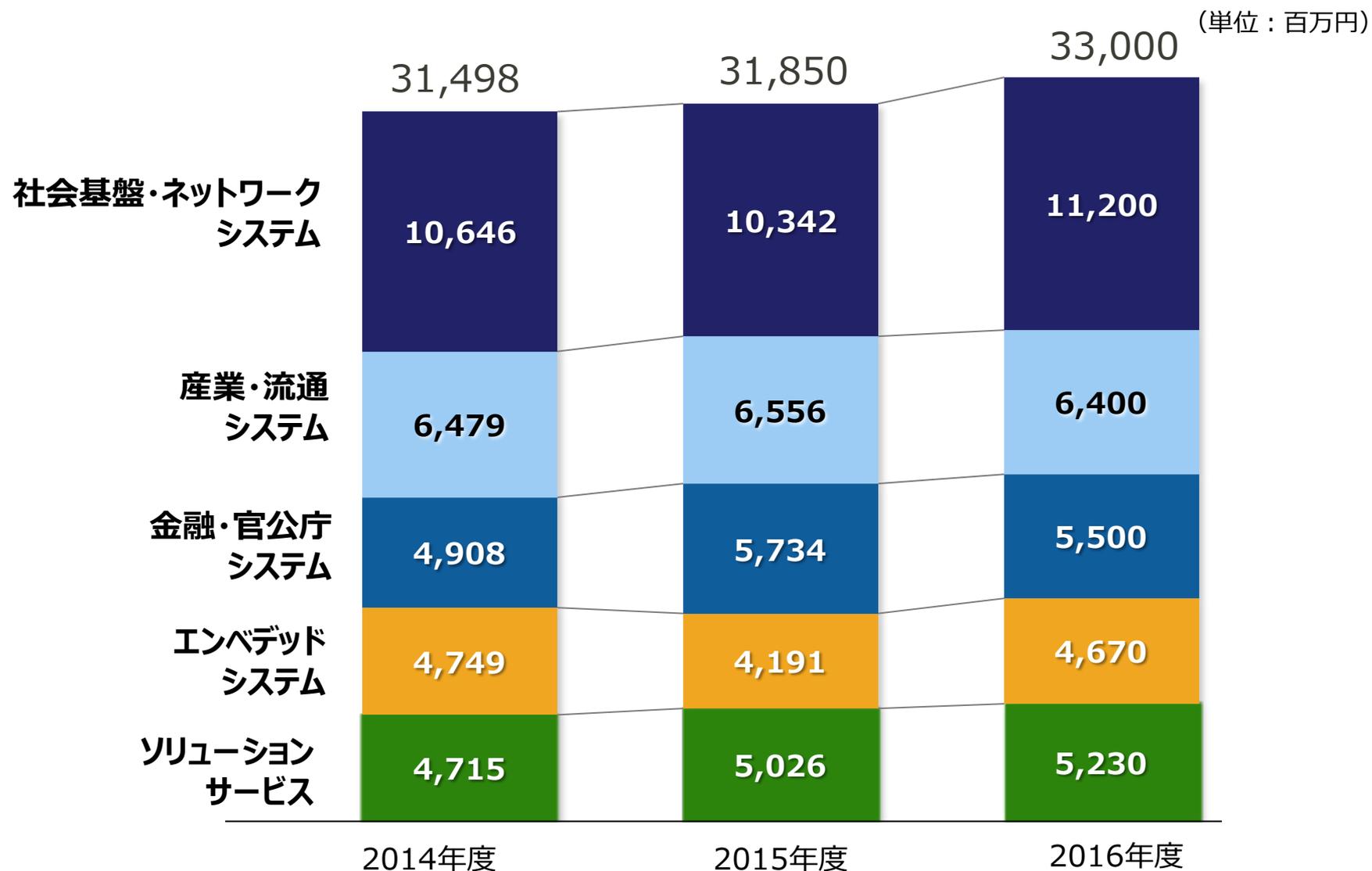
事業区分別売上高

(単位：百万円)



※事業区分の見直しに伴い2014年度の一部に組替あり

事業区分別売上高



※事業区分の見直しに伴い2014年度の一部に組替あり

インテグレーションサービス



売上高

(単位：億円)

	2014	2015	2016
社会基盤	106	103	112
産業・流通	64	65	64
金融・公共	49	57	55
合計	220	226	231

2015総括

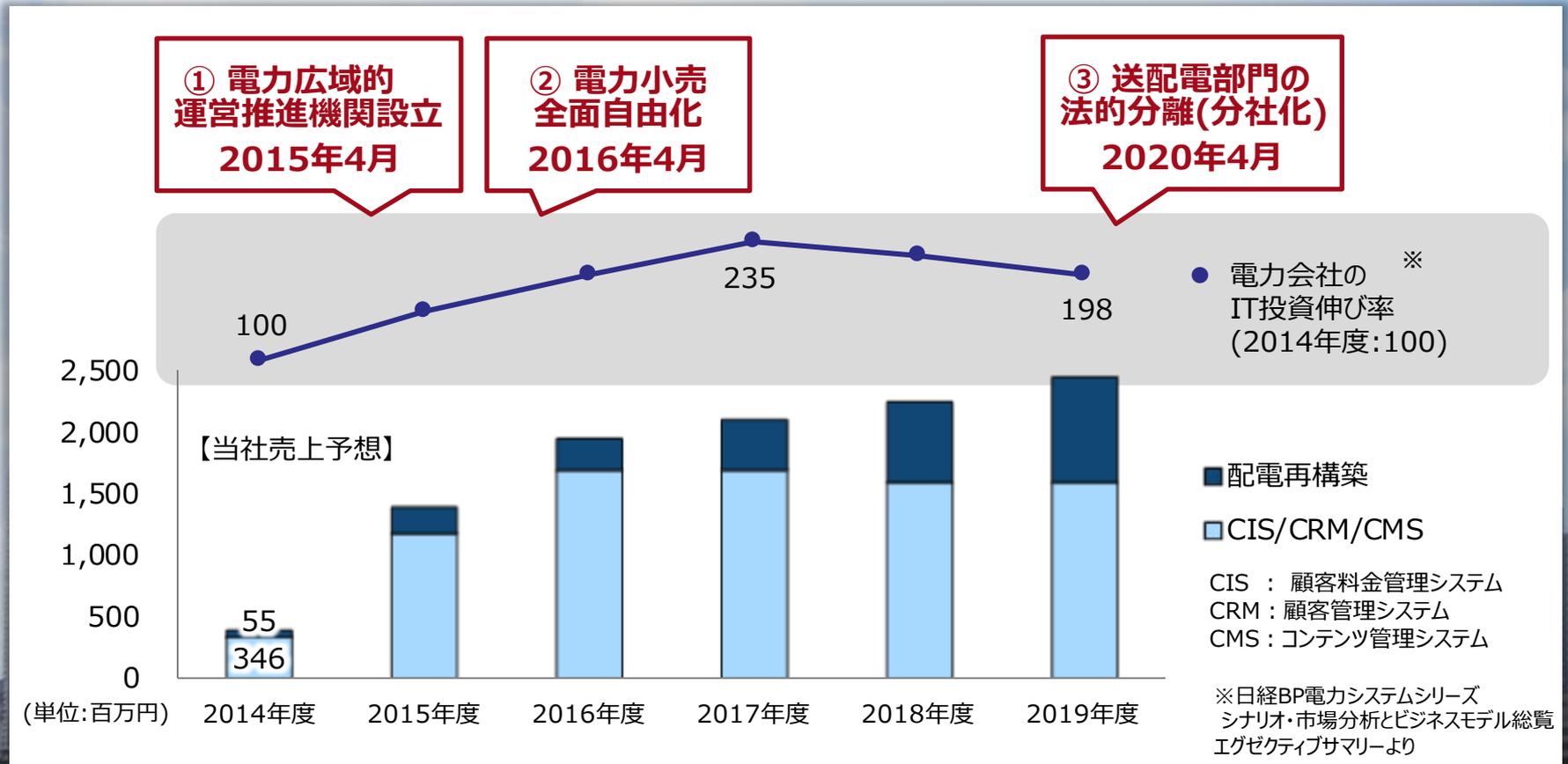
- 社会基盤；エネルギー分野拡大、既存顧客のシステム更改は増加したが、ネットワーク系減少
- 産業流通；既存顧客向けが堅調であったが、ソリューション系が伸び悩む
- 金融公共；大手金融機関向け大型開発が順調に推移し、大幅に増加

2016展望

- 社会基盤；電力自由化等を背景にエネルギー分野を伸ばし、通信キャリア法人系のスマートデバイス関連商談を、ワンストップ対応で伸ばす
- 産業流通；ソリューション系商談を拡大し、一方でSIについては慎重に受注
- 金融公共；大手金融機関向け作業は収束し、そのノウハウ・人員を同業他社へ展開

電力システム改革に対応。社会のニーズあわせたシステムを提供

- 2016年まで、電力完全自由化に伴い新規参入企業が増加
通信キャリア向け課金システムで培ったノウハウ・技術をベースに、顧客料金管理ソリューションを展開
- 2020年に向け、地域系電力各社の配電系システム再構築の受注拡大を推進



エンベデッドシステム



売上高

(単位：億円)

	2014	2015	2016
エンベデッド	47	41	46

2015総括

- デジタルカメラ、車載機(情報系)が引き続き苦戦
- 営業利益率3Qから回復(上期△8.4%、3Q+0.1%、4Q+5.6%)

2016展望

- 車載機(制御系)、医療機器等の成長市場及びデジタルカメラが拡大
- 客先常駐から社内開発への推進等開発効率化を図る

ソリューションサービス



売上高

(単位：億円)

	2014	2015	2016
ソリューションサービス	47	50	52

2015総括

- サービス；運用監視サービス、人材派遣が順調
- PKG；既存顧客の大型案件(セキュリティ)が端境期であり減少

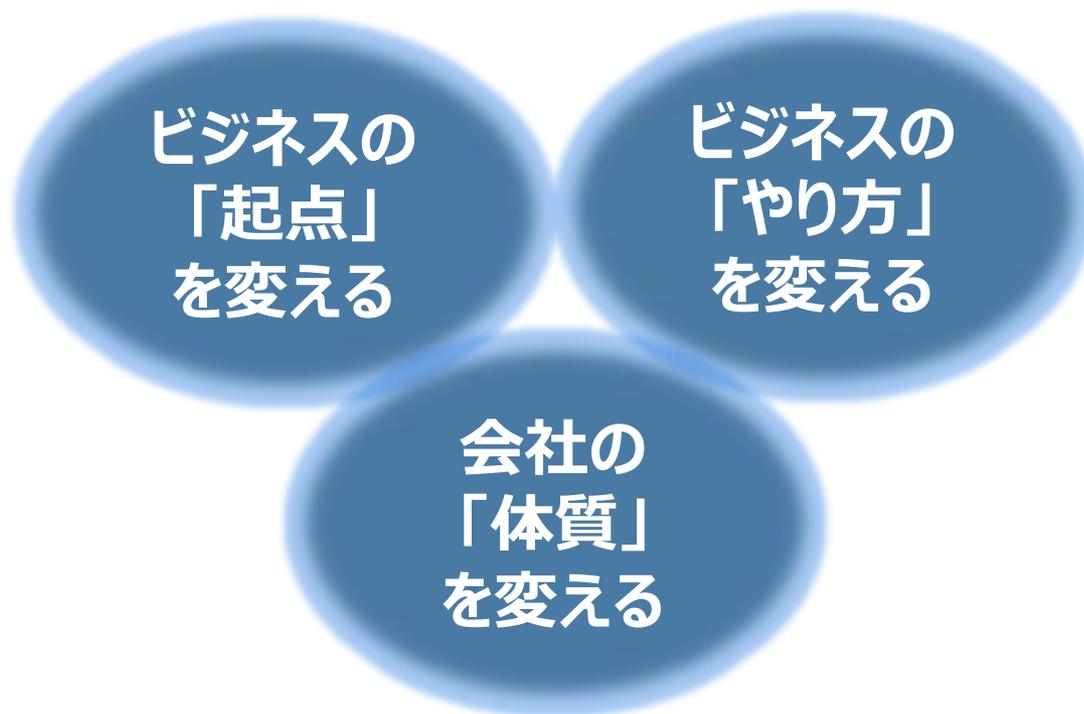
2016展望

- サービス；クラウドサービス(スマートデバイス端末管理)拡大
- PKG；大口先の端末リプレースが端境期を脱し本格化

目次

1. 2015年度決算概要
2. 事業区分別状況
3. 2016年度の取り組み/業績予想
4. トピックス

■ 成長戦略の実現に向けた3つのアプローチ



継続して実施した取組みの成果を示す年
未来を創る取組みの道筋を明らかにする年

引き続き、会社の体質を改善し、人を育成する施策を展開

✓ 既存施策の継続、定着

- 3委員会活動（リスクコンプライアンス、業務プロセス改革、人材ローテーション）
- 社員教育の充実（富士通研修プログラム、キャリアフレームワーク 他）
- アシユアランス機能の一層の充実

✓ 重要課題の自律的解決

- 役職や組織を越えたチームによる重要課題の解決

✓ マインドケア、コミュニケーションの充実

- 全社員と役員の間接ミーティング
- 社外常駐社員への役員訪問

**企業体質改善を一層加速、強固な土台を構築
マインドセット、改善の仕組みをしっかりと定着**

強みを活かし、「選択と集中」「新しい取り組み」を指向

✓ 成長市場へ積極的に取り組む

- エネルギー分野(システムインテグレーション)、医療分野(エンベデッド)
- 全業種に対し、セキュリティソリューションの拡販
(FENCEシリーズ、MDMソリューション)

✓ 新規事業、新技術を積極的に探し、チャレンジする

- デジタルビジネスプラットフォーム「MetaArc」
- ハッカソン(技術発掘会)の開催や参加、社内アイデア抽出(寺子屋)
- 富士通グループシナジー(人的交流や共同研究)によるシーズの発掘

✓ 新たなビジネスモデルに取り組む

- M & Aによる新たな市場への積極参入(IoTなど)
- 低コストオペレーションを可能とするニアショア拠点の設立

お客様起点、Human Centricがビジネスの起点
新たな行動を実践し未来につながるチャレンジを加速

2016年度 通期連結業績予想

(単位：百万円)

	2015年度	2016年度 (予想)	前年度比	増減率(%)
売上高	31,850	33,000	1,150	3.6%
営業利益	106	600	494	5.7倍
(営業利益率)	(0.3%)	(1.8%)	(1.5%)	
経常利益	113	560	447	5.0倍
親会社株主に帰属する 純利益	△2,248	510	2,759	—
1株当たり配当金	27円	27円	—	—

■ 強固な土台の構築・定着につとめ、未来につながるチャレンジを加速

- ・ 売上高330億円、営業利益6億円を見込む
- ・ 安定配当を継続、2016年度も1株当り年間27円を予定

※現時点で入手可能な情報に基づき作成、実際の業績は当該予想と異なる場合があります。

目次

1. 2015年度決算概要
2. 事業区分別状況
3. 2016年度の取り組み/業績予想
4. トピックス
 - ・新規ビジネス、新技術へのトライ
 - ・導入事例広告、プレスリリース

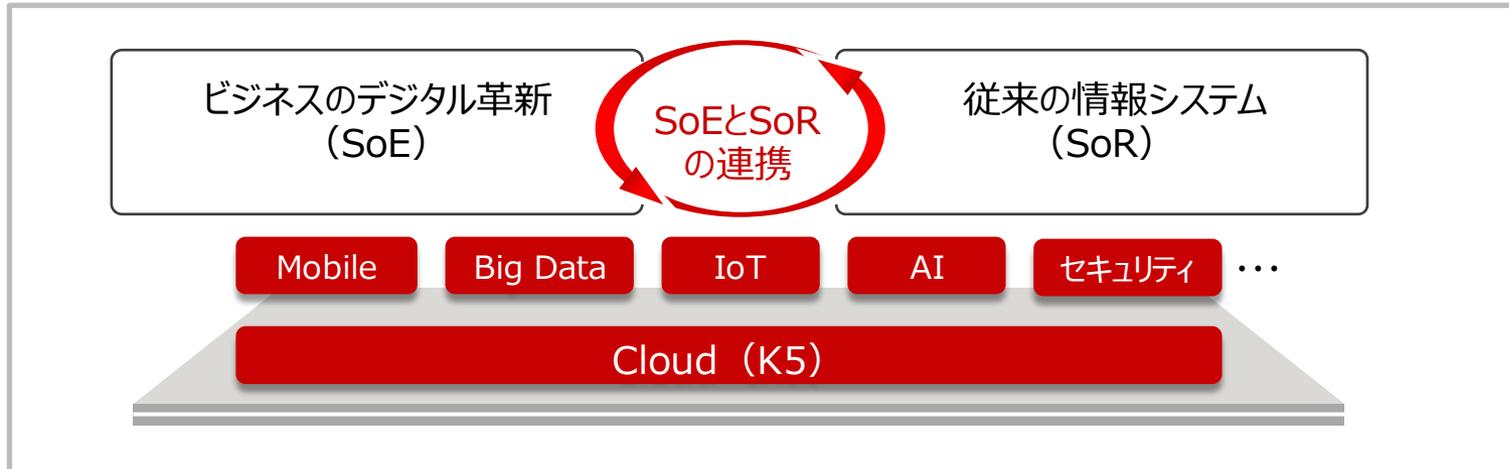


場所: 東京国際フォーラム[有楽町]

日時: 5月19日(木)・5月20日(金)

10時~18時

富士通DBPF「MetaArc」 <Cloud・Mobile・Big Data・IoT・AI等最先端ICTを提供>



BSCの参画分野

- ① **MetaArcを活用し、
新たなSI分野へ挑戦！**
既存のITシステム[SoR]
(業務効率化、コスト削減等)
+

新たなITシステム[SoE]
(現状ビジネスのプロセス革新、
新商品・サービスの創造、企業を超えた共創)

- ② **業務・技術ノウハウを提供**

- 当社の強みをテンプレート化し提供
⇒富士通グループ各社が使用することで、
ストック (PKG的要素) ビジネスに
⇒富士通グループを活用した販路拡大

- MetaArcのコア技術への参画
⇒技術の蓄積と富士通内でのポジション確立

導入事例広告、プレスリリース

■ 導入事例広告



株式会社第一興商様 [エンベデッドシステム]



株式会社ヴァンクス様 [Oh-Pa 1/3]



株式会社トランストロン様 [Bitsolino-Lieve]



ユニアデックス株式会社様 [BillingSaver]



リック株式会社様 [CAP21]



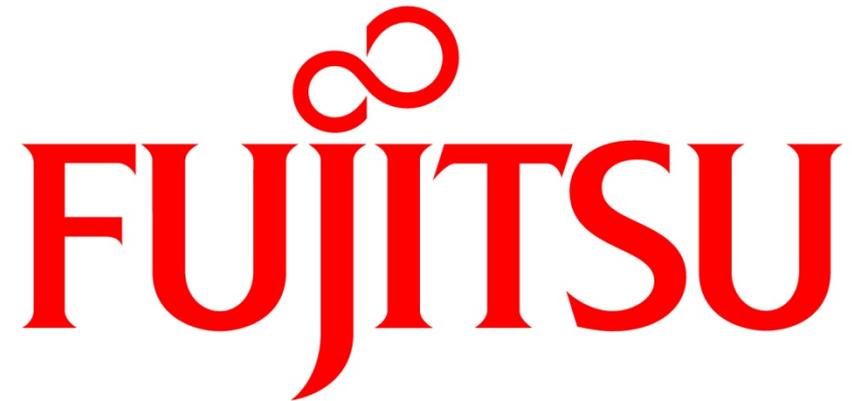
東京成徳短期大学附属第二幼稚園様 [ぼるる]

■ プレスリリース

4月27日 第一環境株式会社様、スマートデバイスのセキュリティ対策に 完全閉域網で運用可能な「FENCE-Mobile RemoteManager」を導入！

3月8日 マイナンバーの効率的な収集をタブレット端末で実現する「マイナンバーカード対応OCR認識ライブラリ」を販売開始

7月30日 富士通ビー・エス・シーと伊万里市がシステム運用サービス提供拠点設立に向けた進出協定を締結



shaping tomorrow with you

《本資料に関するご注意》

本資料の目的は、当社への理解を深めていただくための一般的な I R 情報を提供することで、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、情報利用者ご自身の判断に基づいて実施願います。

将来の業績等に関する見通しは、資料作成時における一定の前提に基づいて作られています。実際の業績は多様な不確定要素により、見通しとは異なる結果となり得ることをご承知ください。

また、掲載情報については細心の注意を払っていますが、内容についていかなる保証を行うものではなく、本資料の情報を使用したことによって生じたあらゆる障害や損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。